

## 平成28年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

多部制単位制高校の意義をふまえ、生徒や保護者、地域等の期待に応える教育活動を常に研究しながら、進化する学校をめざす。

- 1 本校のあり方や方向性を検討しながら教育活動を推進し、生徒や保護者、地域等の期待に応える学校をめざす。
- 2 自らの将来に展望を持ち、主体的に学ぶ力を身につけた生徒を育てるとともに、希望する進路を実現できる学校をめざす。
- 3 人権を大切にし、自尊感情を向上させるとともに、社会性（規範意識・ボランティア精神等）を身に付けた生徒を育て、誰もが安心して学べる学校をめざす。

## 2 中期的目標

## 1 本校のあり方や方向性の検討と、生徒・保護者・地域等の期待に応える教育活動の展開

- (1) 現状の分析と生徒・保護者等の期待の把握を行い、方向性を明確化して必要な取組を計画・実施する。
  - ア 生徒の現状を正確に把握するため、生徒・保護者懇談や家庭訪問など家庭との連携を図る。
- (2) 本校の教育活動への理解を促進するため、広報活動の充実を図る。
  - ※ 府内90%以上の公立中学校に本校の案内をする。
- (3) 職員研修の充実により、常に人権意識と教育力の向上を図る。
- (4) 学校協議会や学校教育自己診断などを活用し、保護者・地域等と連携した教育活動を進める。
  - ※ 保護者向け学校教育自己診断の「生徒指導や進路面で、学校は家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」の肯定的回答率（平成27年度73%）を平成30年度には80%にして維持する。
  - ※ 地域との連携を深め、地域の事業所等での職場体験やインターンシップを実施する。

## 2 生徒の現状をふまえた「学びのシステム」の構築と、進路指導体制の充実

- (1) 希望進路の実現に向けた「学びのシステム」を充実させる。
  - ア 桃谷版キャリア教育「もだにプロジェクト」を完成させて実践する。
    - ※ 自尊感情・自己有用感・職業観勤労観・自己理解等の向上（アウトカム指標で全項目プラス評価）
    - ※ 進路未定率の減少（平成27年度と比較して5ポイント以上減少）
- (2) 充実した学びなおしの環境をめざす。
  - ア 多様な学習履歴を持つ生徒の意欲を引き出すため、学校設定科目の増設や習熟度別授業編成を強化
  - イ 希望進路実現のための自学自習の場所提供や補習・講習の充実
  - ウ 学習意欲の向上を図るため、学外の学習機関との連携や学習評価について研究する。
- (3) 生徒の授業評価や授業公開を通して授業力を向上し、全教科で「わかる授業」の実現をめざす。
  - ※ 生徒向け学校教育自己診断の「授業はわかりやすい」の肯定的回答率（平成27年度75%）を30年度までに80%以上にして維持させる。

## 3 生徒の自尊心を回復し社会性の向上を図る取組み及び人権教育の確立

- (1) 「総合的な学習の時間」や特別活動等で人権教育を充実
  - ア 人権教育でフィールドワークやワークショップなどのメニューを開発する。
  - イ コミュニケーション能力を高めるため、自ら考え発信できる教材を開発する。
- (2) 中退防止PTを中心に、現状分析と生徒指導体制を確立する。
- (3) 教育相談体制を充実し、組織的な支援体制を確立する。
  - ア 外部機関との連携を通してカウンセリング体制を強化し、必要に応じたケース会議を持つ。
- (4) 生徒が達成感を実感できる自主活動（生徒会活動、部活動）を充実し、社会性を育成する。
  - ア 生活指導の徹底と自主活動や学校行事などの参加者を増やす環境づくりをめざす。
    - ※ 生徒向けの学校教育自己診断の「担任以外にも、気軽に相談できる先生がいる」の肯定的回答率（平成27年度63%）を平成30年度までに75%以上にして維持する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成28年12月実施分]				学校協議会からの意見	
結果・分析・課題等 <共通項目：数値は肯定的な回答の割合を示す>					
	質問項目	生徒	保護者	教職員	
学校意識	桃谷高校に入学して（させて）よかった。	86%	97%	90%	<p>【第1回】平成28年7月20日(月)</p> <p>① 学校の情報発信方法として、ホームページは有効である。学校の様々な取組みを、ホームページを通じて、外部へ発信してほしい。</p> <p>② 学校として、教育的ニーズを的確にとらえることは大切である。教員間の横のつながりを密にして、いろいろな場面で情報を共有するとともに、全体でも確認していくことが必要である。</p> <p>【第2回】平成28年12月2日(金)</p> <p>① 学校行事の出席率は、生徒の希望にどれだけ添えるか、ということでも変わってくる。すべて叶えることは無理だが、創意工夫によって出席率向上をめざしてほしい。</p> <p>【第3回】平成29年2月2日(木)</p> <p>① 経験の少ない教員に対する校務関係の研修を行うことはいいことなので、継続して欲しい。</p> <p>② 行事等の教育活動終了後に毎回アンケートを実施し、その結果を読み取り具体的な取組みに生かしていることはいいことだ。</p> <p>③ 自己有用感、ちょっとしたきっかけで変わる。調査した時の生徒の状況に左右されるので、判断は慎重に行えばよい。</p>
	この学校には、生徒や保護者のニーズにあった特色がある。	87%	97%	94%	
学習指導	授業はわかりやすく楽しい。（心がけている）	72%	69%	96%	
生徒指導	学校生活についての先生の指導は納得できる。	75%	87%	81%	
教育相談	担任以外にも保健室・相談室等、気軽に相談することができる先生がいる。	50%	80%	81%	
進路指導	学校では、将来の進路や生き方について考える機会がある。	71%	81%	60%	
道徳教育	命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会が多い。	71%	80%	68%	
人権教育	学校は生徒に人権を尊重する意識を育てようとしている。	74%	88%	54%	
情報提供	学校は、教育情報について、提供の努力をしている。		80%		
<p>・対象者別の全体的な肯定率は、生徒66%（20項目）、保護者76%（20項目）、教職員68%（25項目）とで昨年並みであった。</p> <p>・生徒の質問項目「桃谷高校に入学してよかった。」については直近4年間のアンケート結果において最高値を記録した。桃谷高校のアドミッションポリシーに合致する生徒を受け入れることができていると評価することができる。今後も学校説明会や公開授業、中学校訪問をおこない、桃谷高校の教育について広めていきたい。</p> <p>・キャリア教育に関して、HRでの「ももプロ」の取組みに加え、普段の授業においても生徒に職業や将来のことを考える機会を作るように取り組んでいかなければならない。教員間で共通理解を深め、学校全体としてキャリア教育に取り組んでいきたい。</p>					

## 府立桃谷高等学校 (C S I II部)

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 本校のあり方や方向性の検討と、生徒・保護者・地域等の期待に応える教育活動の展開	<p>(1) 保護者等との連携</p> <p>(2) 本校への理解を促進する広報活動の充実</p> <p>(3) 学校力向上のための職員研修の充実</p> <p>ア 職員研修の実施</p> <p>イ OJT とメンター方式により相互の教員力を向上させる実践的研修の実施</p> <p>ウ 参加型研修による実践力の向上</p> <p>(4) 地域連携の一層の推進</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者懇談や家庭連絡を通じて、生徒の状況を正確に把握するとともに、単位修得へと結びつくように指導を行う。</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>真に本校を必要とする生徒・保護者に、本校の学校情報を正確に届けるため、文書案内やHP掲載、体験授業や個別相談、学校訪問などの実施。</li> </ul> <p>(3)</p> <p>ア・本校が必要とする教員力を向上させるための研修会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究会等の外部研修の積極的案内と参加</li> <li>教職員のアイデアを学校運営に反映させるためのコミュニケーションタイムの実施</li> </ul> <p>イ・初任者のメンターとして2年～4年目の教員を充てる本校独自のメンター制度を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2年目教員への学校運営を学ぶ研修を学校説明会と学校協議会を活用してOJTで実施</li> <li>初任→2年目→メンター→ミドルリーダー→リーダーと組織での役割を分類し、それぞれの実践力と組織力をOJTにより向上させる</li> </ul> <p>ウ・人権に関して、参加体験型を含めた研修を行い実践力の向上を図る</p> <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域等と連携した授業や総合学習等を一層推進する。</li> <li>地域と連携した防災への取組みを推進する。</li> </ul>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者懇談の実施率 前年度の10%増 (H27 前期 40.7%、後期 26.7%)</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中学に文書案内 府内公立中学 100%の維持 (H27 100%)</li> <li>HP更新回数 50回以上 (H27 45回)</li> <li>体験授業参加者の肯定的評価 90%以上 (H27 1回目 100%、2回目 96%)</li> </ul> <p>(3)</p> <p>ア・人権及び支援教育に係る研修会を5回以上実施 (H27 5回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外部研修への参加者数 10人以上</li> <li>教職員のアイデア採用件数</li> </ul> <p>イ・メンター制度への関係教員の満足度 肯定率 80%以上 (H27 67%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2～3年目教員による学校広報プレゼン、学校協議会記録作成(完成度で評価)</li> </ul> <p>ウ・研修参加者の肯定的評価 80%以上 (H27 87%)</p> <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域等と連携した参加体験型学習の実施</li> <li>地域と連携した防災研修の実施</li> <li>防災計画の見直し</li> </ul>	<p>(1) 保護者懇談は、家庭訪問等も含めて前期 45.5%、後期 39.8%の実施率。次年度も家庭との連携を重視したい。 (○)</p> <p>(2) 今年度も体験授業案内を府内全中学校に送付するとともに、HPを通じて情報発信に努めた。(更新回数 57回) 中学生対象体験授業参加者からは、肯定的評価 1回目 92%、2回目 100%と高い評価を得た。(○)</p> <p>(3) ア・今年度も、人権研修3回、支援教育研修2回計5回実施し、様々な生徒への対応に向けた研修に取り組んだ。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外部研修の案内も積極的に進め、14講座のべ21人が参加し、資質向上に努めた。(○)</li> <li>今年度2回のコミュニケーションタイムを実施し、前期では校外学習に関して出されたアイデアを3件採用し実施した。スピーディーな企画立案と全教員の共通理解のもと、初めての企画にもかかわらず、円滑に実施することができた。生徒の肯定的評価は 89.9%であった。後期では、すぐに活用できるアイデアこそ出なかったが、本校のシステムについて共通理解を深めることができた。(○)</li> </ul> <p>イ・今年度は、対象教員8名で年間13回実施した。外部講師も招き、幅広い内容に取り組み、教職経験の少ない教員のスキルアップを行うことができた。参加教員の満足度 肯定率は 87.5% (◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3名の教職経験の少ない教員が、学校説明会でのプレゼンや個別相談を担当し、本校の教育活動に対する理解を深めるとともに、中学生・保護者等に対し説明を行った。また、第2回学校協議会の記録を作成し、HPで公開した。(○)</li> </ul> <p>ウ・ハラスメント防止に向け、基本となるコミュニケーションの取り方に関する研修を体験も交えて実施した。82.9%の参加者から肯定的評価を得ることができた。 (○)</p> <p>(4)・「福祉」の授業及び総合学習で計22回実施し、生徒の学習活動に活用した。 (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>8月に区役所防災担当者を講師に招き、課程を超えて、防災研修を実施した。(○)</li> <li>12月に防災PTメンバーを対象に研修を実施し、地域組織との連携に向けた取組みが必要であることを確認した。(○)</li> </ul>

## 府立桃谷高等学校 (C S I II部)

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 生徒の現状をふまえた「学びのシステム」の構築と、進路指導体制の充実</p>	<p>(1) 「学びのシステム」の構築 ア キャリア発達を促す「学びのシステム」の構築 イ 実社会に触れる学びの実践 (2) 授業力の向上 ウ 「わかる授業」の視点による授業研究 エ 「確かな学力」を育成する授業の研究 オ 「基礎的・汎用的能力」を育成する授業の研究</p>	<p>(1) ア・桃谷版キャリア教育「ももだにプロジェクト」での各教科・分掌等の役割の確認及びコンピテンス(育成したい能力)・具体的取組みの設定。 ・コンピテンスに基づくアウトカム指標(自尊感情・自己有用感・職業観勤労観・自己理解・将来像)について、<u>新入生の入学時と1年後の肯定率の変化</u>、並びに在校生の肯定率の経年変化の検証を行う。 ・進路実現に向け意欲を高める「キャリア・ガイダンス(進路担当者面談)」及び「キャリア・カウンセリング(担任面談)」の充実 イ・進路説明会において実社会に触れる学びが実現できるよう内容の充実を図る。 (2) ウ・「わかる授業」をテーマにした継続的授業研究。 ・授業見学月間年2回実施(6月, 1月) ・授業で視聴覚機器やICT機器を活用する。 ・授業で考えをまとめさせたり、発表させる機会を設ける。 エ・教科毎に、授業での「思考力・判断力・表現力」の育成をテーマとした指導方法を研究。 オ・「基礎的・汎用的能力」を育成する授業をテーマに研究協議を実施。</p>	<p>(1) ア・各教科・分掌等においてコンピテンス・具体的取組等の作成(4月) ・アウトカム指標(自尊感情・自己有用感・職業観勤労観・自己理解・将来像)の新入生の1年後の肯定率を入学時比較20%上昇。また、在校生の肯定率を前年度比較5%上昇 ・進路希望未定者の減少10%以下(H27 15%) ・進路未定率の減少22%以下(H27 24.1%) イ・進路説明会の参加数の向上5%増及び生徒評価肯定率80%以上(H27 参加者 3.4%増、肯定率93%) (2) ウ・すべての教科で研究授業と研究協議の実施 ・見学感想票の提出80%以上(H27 82%) ・学校教育自己診断(生徒用)「視聴覚機器やコンピュータの活用」70%以上 ・学校教育自己診断(生徒用)「授業で考えをまとめたり、発表する機会」60%以上 エ・「確かな学力」の指導方法をまとめる(12月) オ・授業アンケート項目「知識技能が身に付いたと感じている」の全教科平均3.2以上(H27 前期3.1、後期3.2)</p>	<p>(1) ア・4月に各教科・分掌等で作成し、学校教育計画に記載した。(○) ・新入生の肯定率2.3%下降。在校生の肯定率5.9%下降。(△) ・進路説明会等の取組みの工夫により、進路希望未定率8.7%となった。(○) ・進路未定率11.4%(○) イ・進路説明会参加者が9.7%減となった。次年度は、開催時期や内容に工夫が必要である。(△)参加者の肯定率は87%と一定の評価を得た。(○) (2) ウ・実施率は100%となった。複数回実施の教科もあった。(○) ・見学感想票提出率は84.1%となった。徐々に授業改善に向けた意識が向上しつつある。(○) ・視聴覚機器等の活用についての肯定率は、52.7%(H27 55.6%)。引き続き、ICTを活用した授業改善に取り組む必要がある。(△) ・発表する機会についての肯定率は、37.1%で昨年(H27 36.9%)より微増。引き続き、指導の工夫が必要である。(△) エ・授業アンケートの結果の分析と合わせて検討し、3月の職員会議で報告。 オ・昨年同様、前期3.1、後期3.2という結果だった。引き続き努力を続けたい。(△)</p>
--	---	---	---	--

## 府立桃谷高等学校 (C S I II部)

<p>3 生徒の自尊心を回復し社会性の向上を図る取組み 及び人権教育の確立</p>	<p>(1) 総合学習や特別活動等を活用した人権教育の充実と「生きる力」育成の取組み</p> <p>(2)(3) 支援教育・規律指導・教育相談の三位一体による教育活動の展開</p> <p>(4) 社会性育成のための取組み ア 地域の教育資源の活用 イ 達成感の得られる自主活動や学校行事の充実 ウ 居場所作りと安全・安心の向上</p>	<p>(1) ・人権学習プログラムを桃谷版キャリア教育「ももだにプロジェクト」の中に位置づけ、参加体験型も含めて、H28 新入生全クラスで系統的に実施。</p> <p>(2)(3) ・「高校生活支援カード」を活用した「個別の教育支援計画」の作成及び活用。 ・支援検討の専門家及び関係機関の協力を得た支援検討会議の実施。 ・教育相談に関して、学校独自で臨床心理士をSCとして招聘。教員組織も、教育相談担当を支援検討担当と別に設け充実を図る。 ・関係機関(司法・行政・福祉)等と連携した支援の実施 ・教育相談・支援教育推進のための研修実施 ・支援とカウンセリングの観点を持った毅然とした規律指導。</p> <p>(4) ア・地域等との交流を深め、地域人材の協力を得た授業や講演、職場体験などの充実を図る。 イ・生徒会・部活動・ボランティアなど自主活動の充実を図るための環境整備とアナウンス ・魅力ある行事への工夫・改善 ウ・地域人材の協力を得て図書館の整備を行い、図書館を居場所としての充実を図る。</p>	<p>(1) ・人権学習プログラム実施後の生徒評価 肯定率80%以上 (H27 82%)</p> <p>(2)(3) ・「個別の教育支援計画」の作成(必要生徒数) ・支援検討会議の実施回数 ・SCとのケース検討回数 ・関係機関を交えたケース会議等の実施回数 ・教育相談・支援教育に関する研修の実施 2回の維持 (H27 2回) ・指導に対する生徒の納得度 肯定率85% (H27 83%)</p> <p>(4) ア・地域等の協力を得た教育活動の回数10回以上 (H27 16回) イ・自主活動参加者の向上 前年度部活動参加者の5%増 (H27 12.5%増) ・行事参加者の満足度 肯定率80%以上 (H27 校外学習 82%) ウ・地域人材の協力を得た図書館整備の実施 (20回) ・図書室利用者 年間3000名以上 (H27 2970名)</p>	<p>(1) 人権学習肯定率は89.1%で高い評価を得ている。次年度も継続していきたい。(○)</p> <p>(2)(3) ・個別の教育支援計画13人分を作成した。家庭連絡等も密になり、生徒指導に役立った。(○) ・支援検討会議を7回実施した。合理的配慮を踏まえた検討を行い、個々の生徒に応じた学校生活確立に努めた。(○) ・今年度は、SCとのケース会議が必要なケースはなかった。 ・各関係機関とのケース会議を30回実施。情報共有を進め、生徒支援に役立てた。(○) ・今年度も、教育相談、支援教育に関する研修を2回実施した。教員の学校教育自己診断の教育相談体制に関する肯定率は、81%と高評価になっている。(○) ・指導に対する生徒の納得度の肯定率が75%で、昨年度から下がった。教員間で指導方針に差異が起らないよう、共通認識を図ってまいりたい。(△)</p> <p>(4) ア・福祉、家庭科の授業や総合学習で10か所の外部機関から講師を招くとともに、体育の授業でも地域施設を利用した授業を実施し、内容充実を図った。(○) イ・部活動参加者は、6.9%増となった。徐々にではあるが、活動が活性化してきている。(○) ・体育祭は参加者240名 (H27 233名) で、肯定的評価は90%であった。 文化祭は参加者268名 (H27 269名) で、肯定的評価は92%であった。 1/12にウォークラリー形式の校外学習を実施。参加者188名 (H27 189名) で肯定的評価は89.9%であった。(○) ウ・マネジメント経費で、20回の地域人材活用を行い図書室の整備を行った。また、生徒会の文芸部と連携し、ポップ(本の紹介)の作成など、図書室の魅力アップに向けた取組みも行った。(○) ・図書室利用者は、年間3,852人で、利用する生徒が増えてきている。(○)</p>
---	---	---	---	--